

歌舞伎舞踊「^{あめ}雨の^{ごろう}五郎」とは

「五郎」あるいは「^{くるわがよ}廓通いの五郎」とも呼ばれる^{ながうたきょく}長唄曲による
この^{へんげぶよう}変化舞踊は、^{ぶんそう}幾つもの役柄をひとりの演者が扮装を変えて
踊り分けるもので、その踊り分けがみどころとなるものです。

そうした作品の一景として上映された本作は^{いっけい}雨の降る中、
^{そがのごろう}曾我五郎が^{けいせい}恋人である^{けわいざかのしょうしょう}傾城の化粧坂少将の許へ通う道中を描いたもので、
単独で上演されるようになり、^{ゆうそう}人気舞踊のひとつとして上演を重ねています。

五郎には^{ゆうそう}前髪^{ゆうそう}の血気盛んな勇壮さと共に、
恋人の許へ通う青年の爽やかな色気が求められます。

カラミを相手に^{あらごとみ}荒事味が溢れた様子を見せた五郎は、
やがて、^{てんべに}恋人から届いた天紅の文を手にして、その恋心を描きます。

このクドキはみどころのひとつです。

続いて、「^おいでおそれよ」からは、

^{かたきうち}亡父の敵討を志す様子を見せる^{あらごとみ}荒事味が発揮される最大の見せ場となります。

そして、^{くるわ}踊り地となり、廓の内、恋する男女の様子を描く華やかな手踊りを

見せた後、^{なりもの}サラシの鳴物となる中、^{げんろくみえ}元禄見得を見せて幕となります。

柔らか味を交えながら、血から強い荒事風の味わい溢れる舞踊をご堪能ください。